

第4回 阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進協議会 合同ワーキング 議事要旨

1. 日時 平成27年3月19日(木) 15:30~17:00
2. 場所 尼崎市中小企業センター1F多目的ホール
3. 議事
 - (1) 「阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進計画(H25.3)」について
 - ① 武庫川水系における平成26年度災害状況
 - ② 阪神西部一地域の取組状況
 - ③ 指定施設及び指定候補施設
 - (2) 県下における総合治水の取り組み(情報提供)
 - (3) 「減災」の取り組み事例紹介(4市)
 - (4) 意見交換
4. 出席者 47名(ワーキング構成員、協議会委員(オブザーバー)) 別紙参照
5. 配付資料
 - 資料-1 阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進協議会設置要綱
 - 資料-2 武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会について
 - 資料-3 武庫川水系における平成26年度災害状況
 - 資料-4 阪神西部地域の取組状況
 - 資料-5 指定施設及び指定候補施設の一覧
 - 資料-6 県下における総合治水の取り組み(情報提供)
 - 資料-7 「減災」の取り組み事例紹介(4市)

【参考資料】

 - 資料-8 阪神西部(武庫川流域圏)地域総合治水推進計画の概要
 - 資料-9 「命と暮らしをまもるためにできること~これからの治水~」
 - 資料-10 「手づくりハザードマップ作成のポイント」

【 内 容 】

- 1 あいさつ (阪神南県民センター武庫川対策室長)
- 2 設置要綱の改正について (資料-1 を用いて事務局説明)
- 3 武庫川フォローアップ懇話会について (資料-2 を用いて事務局報告)
- 4 議事
 - 4-1 「阪神西部 (武庫川流域圏) 地域総合治水推進計画 (H25.3)」について (以下内容を資料-3、4、5、6 を用いて事務局説明)
 - 4-1-1 武庫川水系における平成26年度災害状況
 - 4-1-2 阪神西部地域の取り組み状況
 - 4-1-3 指定施設及び指定候補施設
 - 4-2 県下における総合治水の取り組み
 - 4-3 「減災」の取り組み事例照会 (4市)
(資料-7 を用いて尼崎市、西宮市、宝塚市、三田市説明)
 - 4-4 意見交換
(各地域での減災の取組状況等に係る主な意見)

(県民 委員等)

- 丹波市で大きな水害があり、波賀野ではどうだろうかと心配があったことから、災害の基礎情報をみんなで共有するため、毎年開催している住民学習会を2月8日に開催したので、その内容を紹介する。

住民学習会では、①篠山市の30年間の平均降水量は1,594mmで全国平均並、この1割や2割が降れば水害が起きると聞いており、昨年8月には丹波市で259mmという雨が降ったこと、②様々な注意報や警報がどういうときに出るのかということ、③波賀野では人家がほとんど土砂災害警戒区域に入っており、避難所である小学校も土砂災害警戒区域に入っていること、④「兵庫県南部地震における火災に関する報告書 (日本火災学会)」によると、災害時の救助について35%の人は自力で避難、32%の人は家族に救助、28%の人が友人・隣人に救助されており、災害時にはまず自分で自分の身を守り、同時に家族の身を守る、さらに隣人を助けているということを注意していかなければならないこと、について学習した。

また、今後、自分の家は土砂災害警戒区域のどの辺にあるのか、どのくらいの雨で、どのくらいの水が谷間から出てくるのか、また雨が降って川の水かさが増したときに、どんな避難経路でどこへ逃げたらいいか、自分で確認しておく。さらに、自治会の中で共通的に危ない箇所があれば市に働きかけていくが、我々の中での共助のあり方、仕方についてこれから注力してやっていければという話をした。

- 三田市防災安全課の協力のもと、10年間の自主防災活動の推移を調査した結果について紹介する。

平成16年から県が行っている防災リーダーの講習会について、三田市における修了者は最初3名、その後累計は100名を超えており、講習を受けた者が同時に受講できる防災士登録も110名になった。

また、それらのリーダー、防災士の方が地元に戻り、自主防災会を設立（平成16年から10年間で自主防災会の設置数が2倍以上となった）したり、防災訓練活動を行ったり、様々な活動をされていることがわかった。

- 防災について、住民としてはいかに守るか、減災していくかが大事であると考えている。今年は、消防団、民生の方と協力して、11月28日に三田小学校と一緒に防災訓練を考えている。3年前には消防団と一緒に防災訓練を行ったが、その時は小学校と連携できなかったため、今回改めて小学校の防災訓練と一緒に総合訓練を行うことで住民の防災意識を高めたいと考えている。昨年の大雨の際に避難準備の情報が入り、それが機能したかどうか地区住民の中で検証したこともあり、秋に総合的な防災訓練をしようということで計画を進めている。

- 毎年10月に防災訓練を行っており、これは単一の自治会なので200名強が参加した。今年度は初めて1月20日に川面防災会と合同で防災訓練を行い、このときは小学生も含め1,200人くらいが参加した。私達の自治会は宝塚大橋の左岸側にあり、昨年8月の大雨の際、武庫川の水位があつという間に護岸付近まで到達し、これにより荒神川が逆流したことにより、30年間住んで初めての避難勧告が出た。支多々川も完全に逆流しており、荒神川周辺の道路も冠水していた。我々の住む周辺の護岸は古く、状況確認をしつつ、県に働きかけたいと考えている。

- 伊丹市には211の自治会があり、ほとんどが自主防災組織を結成している。年に1回、17小学校区の自主防災会が一堂に集まり、市内各小学校区で消防の協力を得て自主防災の訓練をしている。

また、今日伺った中で微々たるものかもしれないが、貯留タンクの普及啓発を、自治会連合会の回覧等を通じて積極的にPRをしたいと考えている。さらに住民の安心、安全を守るための減災等についての啓発資料等があれば、私どもに言っていただければ、市内の自

治会、住民全部へ回覧等によりPRできるので、今後も協力していきたいと考えている。

○ 芦屋市の防災訓練は主として津波避難訓練で、できるだけJR東海道線以北に逃げるということが市民に行き渡っている。前回は国道43号線の南にある宮川小学校から、北の岩園小学校という標高の高いところへ、全校生徒がPTAの父兄等と一緒に避難訓練をしている。

○ 今年は8月豪雨もあり、市街地の山の方で土砂災害の危険が予想されるため、来年度は土砂災害の避難訓練も実施していくという芦屋市の方針がある。自主防災会では、去年の広島で発生した土砂災害を教訓として、早期の避難が行えるように市に協力していきたいと考えている。

○ 私たちの地域は、海拔マイナスのところ結構ある地域である。津波に対してはJRまで避難すれば大丈夫とのことだが、そこまでは距離があり、地域の高い場所も意外と少なく、困ったなと思っている。そこで、今年から力を入れていこうと思っているのは、独居の高齢者が多いので、自分だけが逃げるのではなく、近隣の高齢者を把握して、どのようにして一緒に逃げるかということを決め、年に何回か避難訓練をやらないといけないのではないかと考えている。避難ルートや避難所が何箇所あるのか、どこへ逃げたら一番いいのかなど、次善の策等を考えながら、訓練をやりたいと思っている。

また、津波が来たときにどんな対策をするかを頭に入れておく必要がある。堤防についても、堤防の高さもさることながら、堤防補強も順次行っていただきたい。

○ 西宮市では46の防災会がある。私の地区は海に面し、JR線から2、3キロの細長い地区で、標高は1m~5mくらい。地区の住民の意識も異なっている。6年前から2年ごとに大きな防災訓練と、1年ごとにやや小さな防災訓練を行ってきた。規模が大きすぎると住民がどれだけ意識を持っているのかということについて懸念しており、今年は、防災会長である自治会長が責任を持って計画し、各町で津波避難をしようと、10月ごろから計画を始め、3月29日に実施し、アンケートをとることを各町会長にお願いしている。

次に津波避難ビルについてである。弱者救済のことを考えると、高いビルへ逃げるといことも考えなければならないが、実際にマンションや公的な設備へどのようにして逃げればいいのか、受け入れ姿勢がどうなっているかという点が不明。まずは避難ビルの訓練を行うことにより、詳細な調査を行うことを考えている。

「備えと構え」、「備え」は今までも行ってきたが、「構え」はこれまでできなかったもので、これからは「構え」という形の中で、地区住民一人一人が研鑽に努めて、津波、地震から逃れる対策をとっていきたいと考えている。

- 私ども道場地区では、今回の台風 11 号で、家屋の床上浸水、床下浸水、護岸の崩壊といった被害を被った。平成 16 年の台風 23 号での災害時には行政機関等の対応について検証と報告が行われている。今回はそういった検証が行われているのかどうか。もし行われているのであれば、その検証を踏まえて推進計画を見直すべき事項や新たに組み込むべき事項があるのではないかという意見である。

もう 1 点は、推進計画の継続検討課題となっている千苺ダムの治水活用についてである。武庫川流域の治水対策の重要性から、私どもはあらゆる機会を通じて、この千苺ダムの治水活用について神戸市あるいは兵庫県に対して要望してきた。平成 26 年の台風 11 号の被害状況を見ても、千苺ダムの洪水調節施設としての必要性は大であると考えており、兵庫県と神戸市の有機的な連携のもとに、多様な観点から検討していただき、千苺ダムの治水活用の実現をぜひ図っていただきたいと思っている。

(関係団体 委員等)

- 農地は大きな災害時には復興用資材置き場や災害支援拠点となる場合もある。水田については豪雨時の洪水を緩和する機能を持っている。このような多面的機能を持っている農地について、東京都では、農家や農家の委任を受けた J A が地域の自治体と協定を結び、災害時には農地を活用することとなっている。阪神地域においても、自治体が協議、検討することがあれば、J A としても協力したいと考えている。
- 整備計画を進めて河道整備や流域対策を進めても、計画よりも大きい雨が降るといことはあり得ると思っている。日本の場合は、今までの流域の実績雨量をベースに確率雨量を設定して整備をしているた

め、これより大きな雨が降ると被害が発生する場合がある。そのため、地域のみなさんには、できるだけ小さな区域の単位で防災マップをつくったり、まち歩きをして、どう逃げたらいいのか、どこへ逃げたらいいのかを隣保単位や集落でもできるだけ小さい範囲の中で防災活動してもらえばいいと常々思っている。大きな単位で行うと、地域住民それぞれの方々のところにまでは防災意識が浸透しないのではないかと考えているからである。

避難時の要支援者を自治体が把握して、了解を得た人については自主防災組織等に通知するという法体系となっている。了解を得られない人については個人情報のため、災害が起きるとき以外は通知出来ないこととなるため、災害時の要支援者の特定・救助などについては市行政だけでは対応が非常に難しいため、市は地域と協力し、地域はできるだけ小さな単位でマップづくりや訓練を行ってほしいと思っている。

なお、私たちは三田市でもいろいろ活動させて頂いているが、中でも自主的な災害時の行動計画をつくっておいてもらうのが一番いいのではないかと考えている。

(会長)

- 各市、住民の報告を聞き、防災、減災の取り組みが地域レベルで充実しつつあることを心強く感じた。減災の取り組みの中では、住民ができることは、避難をどれだけスムーズに行い、人命を守っていくかということだと思う。

最近の短時間の局地的集中豪雨の発生の多さを考えると、地域の小さな単位での避難に力点を置いた訓練が必要だと思う。

水害や土石流は、発生の可能性や時間帯を天気予報などからある程度想定できるので、地震や津波災害と比べると、防災、減災の備えがしやすい災害と言える。降水短時間予報や降水ナウキャストは避難準備や避難時に非常に有効な情報になりうると思う。

想定される被災区域についても、浸水想定区域や土砂災害警戒区域などがハザードマップとしてつくられ、またCGハザードマップもつくられて公表されている。被災範囲や浸水の程度があらかじめ想定できているということも、津波や地震被害と比べると、防災や減災に備える上では有利な点である。ただ、ハザードマップで示されている浸水想定区域は、一定の降雨条件や氾濫条件を設定した上で計算に基づいてつくられたものであることは十分認識しておく必要がある。

武庫川の場合では、全流域に、確率的に 100 年に一度ぐらいの降雨である 24 時間で 247mm の雨が一定の降雨パターンで降り続いた場合に起こる洪水に基づいて氾濫の有無を判定して決められたものである。また、支川レベルである中小河川でも 50 年に一度程度の雨を設定して、中央集中型の降雨パターンで計算された洪水に基づいて浸水想定区域が設定されている。

このため、最近のような短時間で局地的に集中して降る雨が、ハザードマップをつくったときの降雨条件でカバーされているかということ、必ずしもそうではなく、昨年 8 月 16 日の集中豪雨などはハザードマップの降雨条件からはみ出たものである。そう考えると、避難の目安となる雨量や降り方は、地域ごとで大きく違っている。

したがって、地域ごとに、避難の仕方も避難の経路や避難先も実際はさまざまであり、ひとつの流域であるからといってパターン化してしまうことは難しいし、実効性の点からすればいろいろ付け加えて考えなければならないことがあると思う。

自主避難の目安について、土砂災害に例をとると、降り始めからの累加雨量とその時の時間雨量の両方から判断するという目安が示されている。ただ、これはあくまでも目安であるということをも十分意識しておかないと、先ほどの集中豪雨的な場合には当てはまらない。

このため、減災の柱を避難ということにおけば、やはり地域ごとに過去の被災や浸水の実態も十分に考えた上で、避難計画や避難の体制を整えておくことが大事であり、助け合って避難できる近隣の関係を日頃からつくっておかないと、いざというときには役に立たない。そのためには、お互いが顔見知りになるということも含めて、避難経路の確認や、地域での訓練を地域でやっていくことは非常に重要なことだと思う。

自主的な防災組織が地域ごとに数多くでき、実際に訓練も実施されているということですが、訓練にはやり過ぎということはない。三田市では「自助」、「公助」に加えて、「ご近助」という言葉で言われていたが、声をかけて一緒に逃げましょうという関係を本当につくることは、言うはやすく実際には難しいことなので、それも訓練を通じて準備していくことが大事ではないかと思っています。

いずれにしても皆さんの取り組みが充実していることをお聞かせいただき、非常に心強く感じた次第です。

(傍聴人意見)

- 台風災害の復旧工事が各地で行われているが、この復旧工事と整備計画の関係がどうなっているのか。復旧工事はもとへ戻すだけで、この治水計画に合致しているのかどうかというのがひとつの心配なことである。

防災ネットで、いろんな情報について伝える努力を一生懸命やっていたことについては今日も非常に感じたが、伝わっているかどうかというところを今一度点検してほしい。私も訓練の時に、今日は訓練があるということを、耳を澄ませて聞いているのだが、私の耳には伝わってこない。携帯電話からはくるので問題はないのだが、どういう形で皆さんに伝わっているのかということを今一度点検していただけたらと思う。

第4回 阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会合同ワーキング出席者名簿【オブザーバー】

日時：平成27年3月19日（木）15:30～17:00 場所：尼崎市中小企業センター 1F多目的ホール

	オブザーバー（協議会委員）		合同WG出席者		
◎ 学	神戸大学名誉教授		出席		川谷 健
◎ 関係団体	兵庫六甲農業協同組合 (JA兵庫六甲)	営農経済事業部 担当常務理事	代理	マネージャー	木田 竹枝
	NPO法人ひょうご地域防災サポート隊	会長	出席		伊藤 道司

◎：協議会会長

第4回 阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会合同ワーキング出席者名簿【WG構成員】

日時：平成27年3月19日（木）15:30～17:00

場所：尼崎市中小企業センター 1F多目的ホール

WG構成員		合同WG出席者			地域別WG	
県	阪神南県民センター西宮土木事務所	武庫川対策室長	出席		中村 浩康	座長
	神戸県民センター神戸土木事務所 企画調整担当	所長補佐	出席		樋口 俊光	上流域WG
	神戸県民センター神戸土木事務所河川課	課長	出席		田村 健	上流域WG
	神戸県民センター県民交流室	県民交流室次長兼 企画防災課長	欠席		河野 豊	上流域WG
	阪神北県民局宝塚土木事務所 企画調整担当	所長補佐	欠席		松尾 進吾	上流域WG 中流域WG
	阪神北県民局宝塚土木事務所	まちづくり参事	欠席		常城 晋治	上流域WG 中流域WG
	阪神北県民局阪神農林振興事務所	副所長	出席		藤本 喜龍	上流域WG 中流域WG
	阪神北県民局総務企画室	室長	代理	所長補佐兼企画防災課長	葉山 琢	上流域WG 中流域WG
	丹波県民局丹波土木事務所 企画調整担当	所長補佐	出席		宮本 健一郎	上流域WG
	丹波県民局丹波土木事務所	まちづくり参事	出席		足立 寿伸	上流域WG
	丹波県民局丹波農林振興事務所	副所長	欠席		小野山 直樹	上流域WG
	丹波県民局県民交流室	室長補佐	欠席		西垣 鉄也	上流域WG
	阪神南県民センター西宮土木事務所 企画調整担当	所長補佐	出席		野崎 敏	下流域WG
	阪神南県民センター尼崎港管理事務所	副所長	代理	河川整備課長	古川 仁	下流域WG
	阪神南県民センター県民交流室	次長	代理	県民交流室室長補佐	若林 尚宏	下流域WG
流域圏市	神戸市建設局下水道河川部河川課	課長	出席		原 正太郎	上流域WG
	神戸市建設局下水道河川部	保全企画担当課長	欠席		吉本 幸宏	上流域WG
	神戸市危機管理室	計画担当課長	欠席		三木 敦史	上流域WG
	神戸市北区役所総務課	課長	欠席		仲田 光男	上流域WG
	三田市都市整備部道路河川課	課長	代理	副課長	石黒 正彦	上流域WG
	三田市経済環境部農業振興課	課長	代理	副課長	榎本 英樹	上流域WG
	三田市総務部防災安全課	課長	代理	副課長	曾根 義隆	上流域WG
	篠山市まちづくり部地域整備課	課長	出席		近成 和彦	上流域WG
	篠山市農都創造部農都整備課	課長	出席		北山 博章	上流域WG
篠山市市民生活部市民安全課	課長	出席		西牧 成通	上流域WG	

WG構成員		合同WG出席者			地域別WG	
流 域 圏 市	伊丹市都市基盤部 都市基盤室下水道課	課長	代理	主査	仲 正彦	中流域WG
	伊丹市都市活力部 都市整備室都市計画課	課長	代理	主任	元松 亮	中流域WG
	伊丹市総務部危機管理室	室長兼主幹	代理	事務職員	磯山 昭博	中流域WG
	宝塚市都市安全部生活保全室 水政課	室長兼水政課長	出席		足立 孝博	中流域WG
	宝塚市都市安全部危機管理室 総合防災課	課長	出席		江崎 康治	中流域WG
	宝塚市上下水道局施設部 下水道課	課長	出席		金岡 厚	中流域WG
	宝塚市都市整備部都市整備室 都市計画課	課長	出席		下野 泰弘	中流域WG
	宝塚市都市整備部都市整備室 開発指導課	課長	欠席		上治 秀臣	中流域WG
	尼崎市都市整備局土木部 河港・21世紀の森推進課	課長	出席		藤川 浩志	下流域WG
	尼崎市都市整備局都市計画部 開発指導課	課長	出席		山崎 勝司	下流域WG
	尼崎市都市整備局下水道部計画担当	課長	出席		長岡 敬一	下流域WG
	尼崎市総務局防災安全部防災対策課	課長	代理	係長	片瀬 元	下流域WG
	西宮市土木局道路公園部水路治水課長	課長	出席		尼子 剛志	下流域WG
	西宮市都市局都市計画部都市計画課	課長	出席		清水 裕文	下流域WG
	西宮市防災危機管理局防災総括室 地域防災啓発課	室長兼課長	出席		竹田 隆	下流域WG
	芦屋市上下水道部下水道課	課長	出席		岩崎 満	下流域WG
	芦屋市都市建設部都市計画課	課長	出席		東 実	下流域WG
	芦屋市都市建設部防災安全課	課長	出席		柿原 浩幸	下流域WG
県 民	神戸市北区道場町連合自治会	会長	出席		山下 政司	上流域WG
	三田市区・自治会連合会	会長	出席		藤村 晴彦	上流域WG
	さんだ防災リーダーの会	前会長	出席		藤野 稔	上流域WG
	篠山市波賀野自治会	役員	出席		酒井 正信	上流域WG
	伊丹市自治会連合会	代表理事	出席		藤原 美彰	中流域WG
	宝塚市花の道自治会	会長	出席		森田 大和	中流域WG
	社会福祉法人尼崎市社会福祉協議会	理事	欠席		田中 正三	下流域WG
	西宮市鳴尾東コミュニティ協議会	会長	代理	副会長	米原 正純	下流域WG
	西宮市用海地区団体協議会防災会	会長	出席		西川 彰一	下流域WG
	芦屋市自治会連合会	会長	出席		堀 晃二	下流域WG
芦屋市自主防災会連絡協議会	会長	出席		天井 裕一	下流域WG	

第4回 阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会出席者名簿

【県関係部局】

所属等	氏名
県土整備部土木局総合治水課武庫川総合治水室室長	高谷 和彦
県土整備部土木局総合治水課武庫川総合治水室班長	當舎 良章
県土整備部土木局総合治水課武庫川総合治水室主査	首藤 充良
県土整備部土木局総合治水課武庫川総合治水室主査	衣笠 秀隆
県土整備部土木局総合治水課武庫川総合治水室	吉開 裕也
神戸県民センター神戸土木事務所河川課課長補佐	岡本 庄市
神戸県民センター神戸土木事務所企画調整担当主査	植野 恵
丹波県民局丹波土木事務所河川課長	西川 宏樹
丹波県民局丹波土木事務所企画調整担当主任	梶 美和
丹波県民局丹波土木事務所企画調整担当	小谷 友美
阪神北県民局宝塚土木事務所企画調整担当主査	柳澤 友樹
阪神南県民センター西宮土木事務所河川砂防課長	古川 雅一
阪神南県民センター西宮土木事務所企画調整担当	八木 亮輔

【事務局】

所属等	氏名
阪神南県民センター西宮土木事務所武庫川対策室武庫川事業課長	藤田 幸治
阪神南県民センター西宮土木事務所武庫川対策室武庫川事業課	中西 裕紀

議事録確定著名人: 樋口俊光 